

中部横断自動車道の概要

中部横断自動車道は、静岡県静岡市を起点に、山梨県甲斐市を經由して長野県小諸市に至る延長132kmの高速自動車国道です。中部横断自動車道が整備されることにより、現在整備が進められている新東名高速道路をはじめ、中央自動車道、上信越自動車道が接続され、日本海及び太平洋の臨海地域と長野・山梨との連携・交流を促進するとともに、沿線の方々が安心して暮らせるネットワークの構築、物流体系の確立や広域的観光ゾーンの開発・支援等に寄与するものと期待されています。

甲府河川国道事務所では、このうち直轄高速※1として整備する、山梨県区間(富沢IC～六郷IC間)※2の延長28.3kmを担当しています。

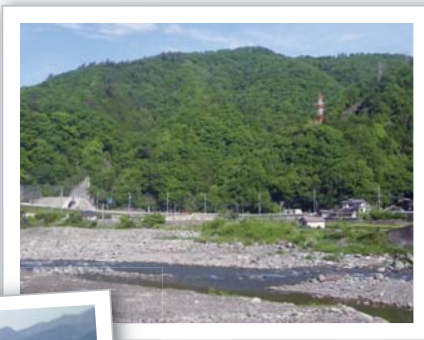
※2 IC名称は仮称

※1直轄高速とは、高速道路株式会社による整備や管理が難しいと判断された高速道路について、国土交通省が整備や管理を行うもの。

豊かな自然とともに



急峻な山地が南北に
つらなっています。



一級河川の富士川を中心に
豊かな水辺環境が広がります。



人と自然が調和した
豊かな里山が広がっています。

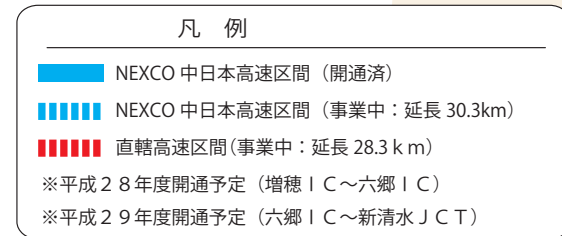
中部横断自動車道(富沢IC(仮称)から六郷IC(仮称)間)は、山梨県南部の峡南地域を通る道路です。

この地域は、一級河川の富士川や大小の支川、急峻な山地、人と自然とが調和した里山など、豊かな自然が残されており、たくさんの生きものが生活しています。

中部横断自動車道では、これらの生きものと共存できる道づくりを目指して、様々な対策を行っています。

このパンフレットでは、事業者である国土交通省甲府河川国道事務所が取り組んでいる生きものへの対策の一部をご紹介します。

中部横断自動車道 路線図



共存できる 道づくりのために

自然の生きものは、猛禽類などの大型捕食動物を頂点としてそれぞれがバランスを保ちながら共存しています。この考えは、「生態系」といわれるもので、どこかにひずみが生じると生きもの全体のバランスが崩れてしまう恐れがあります。

猛禽類は、この「生態系」の頂点に立つ生きものであり、猛禽類が生きていくためには多様な生きものと、それらがすめる広い環境が必要になります。また、そこに生息する様々な生きものが健全に保たれることで、猛禽類の生息も維持されています。

道路事業と、自然豊かな「生態系」との共存を目指すためには、地域全体の「生きものつながり」を視野に入れることが必要です。

中部横断自動車道(富沢IC(仮称)から六郷IC(仮称)間)の周辺には、2科15種類の猛禽類がいます。また、その生息環境を支える様々な生きものが生息しており、その中には、アカハライモリやコクラン、エビネといった貴重な動植物が多数確認されています。

中部横断自動車道では、この様な豊かな自然を守るため、猛禽類を始めとし、貴重な動植物などを対象に、重点的な調査と対策を行っています。



猛禽類等の大型肉食動物を頂点とした「生態系」の概念図

植物の移植

▶ 路線上に生息する希少な植物は、周辺の生育適地に移植し、生育状況を確認しています。

保全対策を行った主な希少植物



コ克蘭
山梨県レッドデータブック 絶滅危惧ⅠA類



エビネ
環境省レッドリスト 準絶滅危惧 山梨県レッドデータブック 絶滅危惧Ⅱ類



オオカナワラビ
山梨県レッドデータブック 絶滅危惧ⅠB類

移植方法



根周辺の土壌を崩さないように掘りとり、ビニール袋に入れて移動します



1個体ずつ丁寧に植えた後、十分に水を与え、移植地で採取した腐葉土を上に乗せます。

両生類の保全

▶ 道路工事で消失する生息池は代替池を整備し、影響を軽減しています。

代替池の造成による生息環境の保全

産卵池が工事で消失する際には、代替池を造成し、産卵池から個体を移しています。

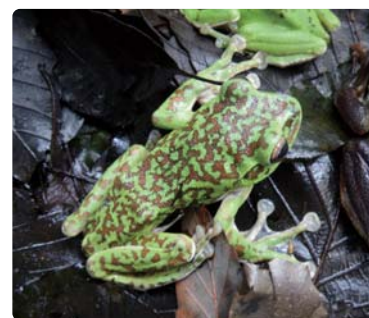


両生類の保全のための代替池を造成

保全対策を行った主な動物



アカハライモリ
環境省レッドリスト 準絶滅危惧 山梨県レッドデータブック 絶滅危惧Ⅱ類



モリアオガエル
南部町の生息地が 山梨県天然記念物に指定

アカハライモリの移設（地元小学生との協働）

イモリの生息池から代替池への移設作業を地元小学生と協働で実施しています。地域の自然の大切さと道路事業に対する自然環境保全の取り組みについて理解を深めていただく活動を行っています。



アカハライモリの捕獲作業



池に設置する看板作り



有識者による生きもの観察会

参加者の声

(小学生)

- ・アカハライモリがたくさんいてびっくりした。
- ・イモリをつかまえるのがたのしかった。

(保護者)

- ・自然環境を考えて、工事を施工していることを、親子で教えていただきました。
- ・環境保全の取り組みを今後共、配慮して頑張ってください。
- ・地元の意見を取り入れながら早期の完成を期待します。

(やまなし淡水生物研究会 窪田顧問から頂いたコメント)

現在、日本中で多くの生き物たちが減少しています。その原因の多くは生息地の開発によるものですが、今回のように事前に準備をして、みんなで手助けすることで沢山の命を助けることもできます。一番大切なのは、まず、自分たちの身の回りにどんな生き物が生活しているか知り、その生き物達が絶えずなく生き続けられる環境を維持することです。そのためには、私達もちょっとした手助けをすることも必要になります。来年の春には新しい池でモリアオガエルやアカハライモリの子供たちが見られると思います。子供たちと共に見守っていきましょう。

ほ乳類の保全

▶ 事業予定地内に生息が確認された希少なほ乳類は、周辺の影響の少ない林へ誘導しています。

巣箱による生息適地への誘導

ヤマネや樹林性コウモリ類(テングコウモリなど)の生息地に対して、生息地が消失するなど、影響が生じる可能性がある地区では、改変地外に巣箱を設置し、誘導を試みています。



ヤマネ
(巣箱の設置)
環境省レッドリスト 準絶滅危惧 山梨県レッドデータブック 準絶滅危惧



樹林性コウモリ類*
(バットボックスの設置)
※テングコウモリ
環境省レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類 山梨県レッドデータブック 絶滅危惧Ⅱ類

主な希少ほ乳類の誘導対策

ワシ・タカ類の保全

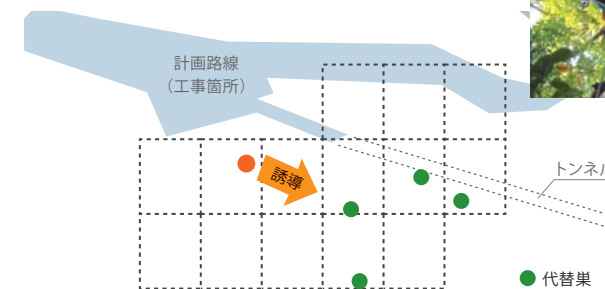
▶ 路線近くで生息する猛禽類を保全するため、騒音低減や工事時期の配慮、代替巣への誘導を行っています。

代替巣の設置

路線近傍で繁殖への影響が懸念される営巣地では、代替巣の設置による、影響の少ない林への誘導を試みています。



代替巣設置の様子



路線周辺で確認された ワシ・タカ類

これまでの調査で、中部横断自動車道周辺では2科15種の猛禽類が確認されています。このうち、主にクマタカ・オオタカ・サシバ等の希少猛禽類の営巣が確認されています。

科	種名	環境省レッドリスト
タカ	ミサゴ	準絶滅危惧
	ハチクマ	準絶滅危惧
	トビ	
	オオタカ	準絶滅危惧
	ツミ	
	ハイタカ	準絶滅危惧
	ノスリ	
	サシバ	絶滅危惧II類
	クマタカ	絶滅危惧IB類
ハヤブサ	イヌワシ	絶滅危惧IB類
	ハイロチュウヒ	
	チュウヒ	絶滅危惧IB類
	ハヤブサ	絶滅危惧II類
	チゴハヤブサ	
2科	15種	9種

環境省レッドリスト区分について
 絶滅危惧IB類…
 クマタカ、イヌワシ
 ■IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
 絶滅危惧II類…
 サシバ、ハヤブサ
 ■絶滅の危険が増大している種
 準絶滅危惧…
 オオタカ、ハチクマ、ハイタカ、ミサゴ
 ■現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
 ※計画路線周辺で生息確認

保全のための最新技術を導入した調査・解析

▶各種調査・解析を行いながら、新たな科学的知見を収集・蓄積しています。得られたデータは、保全対策検討に活用しています。今後、様々な場面への適用も期待できます。

◇猛禽類の主な調査内容

衛星による追跡調査

クマタカ、オオタカに小型GPS発信器を装着し、人工衛星での追跡を行っています。



定点観察調査

双眼鏡や望遠鏡を用いて、飛んでいる猛禽類を記録する方法です。



巣内確認調査

餌内容など猛禽類の基礎情報を把握するため、巣上に小型ビデオカメラを設置し、持ち込まれる餌や、工事中の行動を記録します。



上記の猛禽類を保全するため、各種調査を継続し、保全対策を検討しています。

保全対策検討

計画路線周辺に猛禽類が繁殖を継続できるよう、有識者による検討委員会を設置し、各種調査データに基づいて保全対策の検討を行っています。

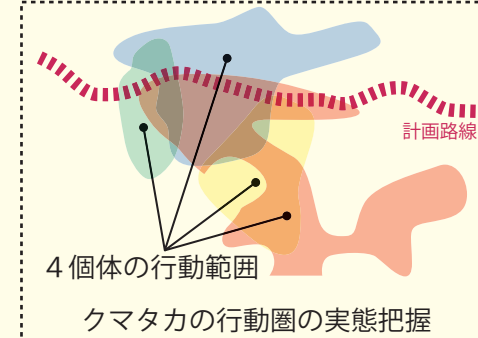
中部横断道猛禽類保全検討委員会

区分	氏名	所属
委員長	阿部 學	NPO法人日本猛禽類研究機構 理事長 元新潟大学 教授
委員	中村 司	山梨大学 名誉教授 日本野鳥の会 甲府支部 名誉会長
	柳澤 紀夫	(公財)日本鳥類保護連盟 理事
オブザーバー	青木 進	山梨県猛禽類研究会 会長 NPO法人日本猛禽類研究機構
	山梨県 森林環境部 みどり自然課 課長	

(敬称略)

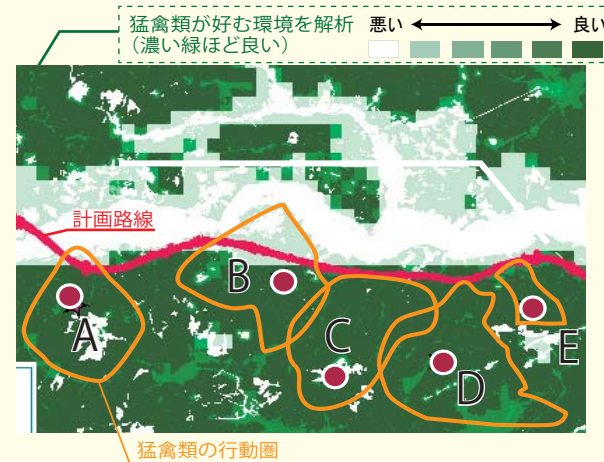
GPSによる最新の行動範囲の把握

人工衛星による追跡調査により、猛禽類の行動圏の実態を正確に把握し、保全対策検討に活用しています。



最新知見を用いた影響評価の実施

GPS発信機や定点観察結果による行動圏に対して、巣内の観察記録などから生息適地を把握し、影響の程度を解析するなど、定量的な影響評価を実施しています。



猛禽類が好む生息地を示したマップの作成
 ※各猛禽類の行動圏と計画路線の位置から、好む環境の減少率を把握し、影響の大きさを評価します。

繁殖期の基礎的データの収集

巣に運び込まれる餌を記録し、工事前後での変化がないか把握しています。また、工事途中での行動を記録することで、工事影響有無を把握し、繁殖への影響を回避しています。

この様な基礎的データを蓄積することで、影響回避に向けた対応の検討などに活用しています。

